

製品名: CB1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08032**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	53kDa

抗原情報

遺伝子名	CNR1
別名	CNR1; CNR; Cannabinoid receptor 1; CB-R; CB1; CANN6
遺伝子 ID	1268.0
SwissProt ID	P21554
免疫原	抗血清はヒト CNR1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

背景

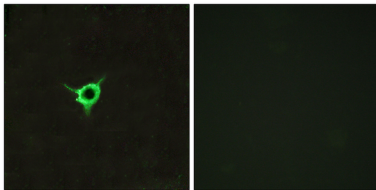
この遺伝子は、2つのカンナビノイド受容体のうちの1つをコードしています。カンナビノイド（主にデルタ-9-テトラヒドロカンナビノールとその合成類似体）は、マリファナの精神活性成分です。カンナビノイド受容体は、Gアニンヌクレオチド結合タンパク質

(Gタンパク質) 共役受容体ファミリーに属し、用量依存的、立体選択的、かつ百日咳毒素感受性にアデニル酸シクラーゼ活性を阻害します。これら2つの受容体は、マリファナ使用者が経験するカンナビノイド誘発性中枢神経系作用（気分や認知機能の変化を含む）に関与していることが明らかになっています。この遺伝子には、2つの異なるタンパク質アイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが記載されています。[RefSeq 提供、2009年5月]、機能：カンナビノイド誘発性中枢神経系作用に関与。アデニル酸シクラーゼを阻害することで作用。アナンダミドの受容体である可能性がある。L型Ca(2+)チャンネル電流を阻害する。アイソフォーム2およびアイソフォーム3はリガンド結合能が異なる。類似性：Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属する。サブユニット：C末端を介してCNRIP1と相互作用する。組織特異性：広く発現している。

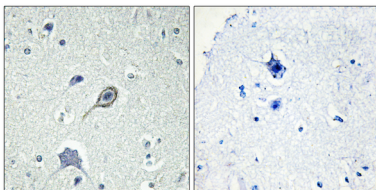
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

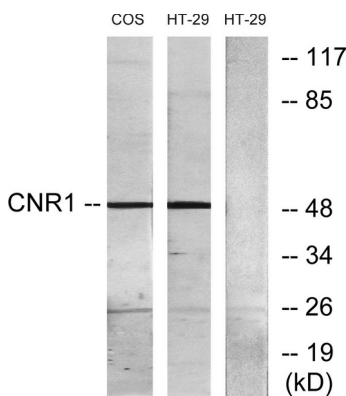
画像データ



CNR1抗体を用いたLOVO細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CNR1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CNR1抗体を用いたHT-29細胞およびCOS7細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。

CB1 ポリクローナル抗体を用いた HT-29 細胞のウェスタンブロット解析

